森の名手・名人シリーズ No.3

名人　安江　美由（67）　加茂郡白川町

聞き手　加藤　広基　郡上高等学校3年

どた曳き
俺の仕事…どた曳き…

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、23名の「森の名手・名人」がいます。

この「森の名手・名人」を「森の”聞き書き甲子園“」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。

なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

1. 昔の自分と仕事を始めたとき

僕の時代は、まだ戦争の真っ盛りで昭和13年生まれやもんでちょうどシナ事変から大東亜戦争には生まれとるわ。国民学校の1年生の8月ぐらいに終戦やったんかな、日本が負けたとき。8月が終戦やったもんでそれまでは国民学校、それからは小学校になって、僕は上佐見小学校に通っとったんや。中学校は佐見中学校。中学の思い出は野球部で野球をやったくらいやな。今と違ってグローブなんかもなかなか手に入らんということで、みんな布で作ってきたようなグローブを使ったりしてやっとったんやけども。そのときに野球部の部長をやらしてもらったんやって。部長のとき手ぬぐいのようなグローブで試合は恥ずかしくてできんて言って、学校の先生に話して生徒会の会費のなかでグローブを買ってもらうように働きかけたわ。それでグローブ一式買ってもらって野球やったわ。そんなことが思い出っていえば思い出やけども。高校は行っとらん。僕らの時はクラス90人ぐらいおったんやけど高校行ったのは3名か4名ぐらいやな。僕は家で百姓をやらないかんかったもんで。百姓やりながら石積みの仕事も覚えとって、ちょくちょく石積みの仕事もやったわ。でも石積みの仕事は身体がついていかんようになったもんでやらんようになった。ほかに百姓だけでもお金はあがらんかったで農耕用に飼っとった牛を利用してどた曳きを始めた。

2. 仕事のパートナー

どた曳きをやってから40年。仕事を大変やとは思わん。でも夏場なんかは土と泥と汗にまみれてやらないかんのが1番大変やとおもうだけで、仕事自体を大変やとは思わんけど。ただ最近は山が低迷してまってなかなか1年中仕事がないんやって。1年中仕事があれば牛も1人前に言うこと聞くようになるんやけど、仕事が減ったもんでまだ手綱を持って歩かないかんのや。荒れたような場所では牛は役に立つんやけど、牛が疲れてまうで続けてやることはできんのよ。自分はやれる限りはやろうと思っとるけど、この牛で終わるやろうなと思っとる。自分も年やし、新しい牛を買ってきてなんてこともできんで、なるべくこの牛を大事に使って、長く仕事を続けようかなとは思っとる。この牛は買ってきた牛なんや。100万円ぐらいするぞ。九州から持ってきたもんで運賃もかかるでけっこうかかったな。初めのときは農耕用に家におった牛でやりよったもんでこいつで7代目か8代目やわ。山で死んだ牛もおるし、寿命が1年ぐらいの牛もおるわ。また何十年も使うと牛の力がなくなってまうわ。やでだいたいは8年やな。この牛は去年の今頃からどた曳きを始めとるんや。まだ若いでいくら止まれって言ったって止まらんし。木がはずれて軽くなっても行ってまうんや。もうちょっと年をとって仕事を分かりだすと木が1本はずれても止まるんやけどな。でも10年ぐらいは使えるもんでやろうとは思っとる、ただ牛がまめなら。牛が足を痛めたりするとダメやし、あんまり肥え過ぎると自分の体重を支えないかんもんで足を痛めることもあるんや。やで、あまり肥やさんようにしないかん。肥やさんようにするには良い餌を与えんとけば肥えんのやけど良い餌を食べな力もだせんてことやろ。力をだすにはある程度良い餌を与えないかんのやし、与えれば与えるだけ金もかかるし。あんまり肥やすと悪循環になってまって。牛もえらがるし、逆に弱い牛になってまうわ。それに動物やもんで危険を感じると逃げたりするんやわ。

どた曳き作業中の安江さん

3. どた曳きの良さと今後の課題

山のような場所では人間ではなかなか引くことができんし、機械1台も入らんのやって。だから牛も必要やなと思うな。木を切っても機械ではだせんし綱では量が少ないし。お金がほしいといっても出すことができんと売ることもできんし。どた曳きはぜんぜん道を作らんでも牛に引かせれば出てくるんや。だから人によっては牛がおらんと山もダメになるでこの牛だけはなんとか飼ってくれと言う人もおるし牛みたいなのには用がないって言う人もおるわ。また、牛でやれば、人が2日仕事して2万円になることでも、牛と一緒にいきゃあ、1日で2万円になる。だから人の半分働けばいいと。そのような計算になるもんである程度この仕事をやって恵まれとるかなと思う。車なんかと比べても燃料がいらんでなんともないけど、牛は使わずに遊んどればただ食べるだけでそういう面ではあんまり良くないけど、こうやって牛と一緒に仕事をすると牛のおかげでここまでこれたんやなって思えるけどな。それに初めのうちは仕事がたくさんあって。仕事がどんどんあれば後継者にやってもらっていくといいと思うけど、仕事もなくなってきとるもんで後継者を作ることなんかもないし、自分一代で耐えれればと思うだけ。あんまりこんな仕事を好きでやる人って今の時代ではおらんと思うんやって。金額がどうとかお金が安い高いとかは別として、この仕事はあんまり好かれるような仕事じゃないもんでその辺は僕一代で終わらんかなって感じや。子供をサラリーマンにしとるで、本当なら子供に仕事を譲っていくのが良いかもしれんけども。なかなかそういう訳にもいかんもんで。

4. 運ばれた木は…

牛が運び出した木は、白川の木材市場があるもんでそこで販売しとる。木によって値段は全然違うんや。そこに木が1本あるやろ。この木とあの木では単価で5万円ぐらい違うんや。向こうの木は1㎥10万円やとするとこの木は5万円にしかならんのや。この木は節があるやろ。これがダメなんやわ。これは目付きのいい場所に使えんのや。これなんか押入れの隅の方にしか使えんわ。それか壁で塗り固めるような場所にしか使えんし。逆に向こうの木は節がないもんで四方どこでも使えるんやわ。誰が見ても恥ずかしくない場所に使えるもんで高いんや。今、運んどる木なんかは車1杯持ってったって20万円ぐらいにしかならん。20万円ぐらいしかとれんのやけども、木を出すのに2日やらな1杯でんやろ。そうすると1日2万5千円とすると牛だけで5万円かかるやろ。

それでトラックに1万5千円かかる。そういうのを含めると15万、16万円ないと市場まで着かんわけよ。そうすると手取りは5万円ぐらいにしかならんのや。だから山が低迷してまうんやな。

手綱を持つ安江さん

5. 仕事のコツ

1回には5本ぐらいやな。1日に8回ぐらいしか運べんわ。8回やと車の7分目ぐらい出るかな。もう1日行けば1杯になるぐらいやな。木を切る人はここに来るときに1軒の家があったやろ。その人が切ってそれを運んどるんや。どた曳きは仕事やでやむをえずやるだけで、おもしろいとか感じたことはなかなかない。でもやればやりがいはあるもんで。毎日歩き歩きやで健康にはいいかもしれんな。とにかく働かな木は運べんもんで動くことが1番のコツやし、成果が出てくるということや。打つということもすごく大事や。この木やったらここに金ぐいを打つと木が倍の重さになってまうんや。ちょっと曲がっとるやろ。だから地面にここだけあたるようにするんや。逆に打つと地面に全部がついてまうもんでなるべく木を見て金ぐいを打つわけやけど、この場合は、この木のこっちが腹で、こっちが背中やもんで腹を上にあげていくように打つんや。いわゆる背泳ぎかな。そのような格好でやると軽く動くし、これを反対にするといくら引っ張ったって人でも動かせんようになる。こういうのも経験せんと分からんわな。俺も40年やっとって、やっと木をかまえるようになったもんやで。製材所で働いとる人は木をかまうのは上手やな。場の良いところでかまうもんで。俺らはどんなとこでも木をかまわないかんもんで、1本1本のかまいかたが違うわけよ。

6. 仕事の苦難

人から見ると泥と汗にまみれた仕事やでみんな古く思うかもしれんけど、自分はこれが働き場所やと思うもんでつらいとは思わんな。ただ牛が全然言うこと聞かんことがあるんやって。そういうときは、なんでこんなことをしてくれたんやって牛の頭をつかんで泣かなあかんようなときはあるな。また、あんまりえらかったり土用の丑の日など暑い日は、牛も暑いでヘドをだしてまうんや。それに、草むらとか陰なんかに入ってまうんやって。それが1番困るわ。また、朝・晩に餌をくれないかんのや。俺がいくら頭が痛くてもなんでも牛に餌を与えな牛がまいってまうでな。それと家を空けるとか遊びに行くとかができんのや。餌をやらんことには仕事ができんなるでな。

【㈳岐阜県緑化推進委員会　倉　武】